

テーマ：『 校内、地域の環境を生かした総合的な学習、理科学習の展開 』

横浜市立 馬場小学校

Tel. 045-571-7777

担当者： 前島 潤



■実践内容：

「学校田んぼに注水する水が水道水では、田んぼにいる生き物たちの生態系に影響が出るだろうし、お金もかかってしまう。」という5年生児童の思いから、ため池を作成して雨水を利用する計画を立てられた。ブロックで作ることにし、5年生児童と地域の方々との協働によってため池が完成した。屋上に降った雨水を溜めることができるようにと、地域の方が無償で配管をつなげてくださった。

また、溜まった雨水を児童がバケツを用いて田んぼに注水していたが、「より使いやすくするためにポンプを設置できないだろうか。」との児童の考えをもとに、業者に計画を打診した。予算内で設置できるように見積もっていただき、ポンプと田んぼに注水する配管を設置することができた。

以上の実践は、全て総合的な学習の中で展開された。

■実践成果：

雨水の利用であるので、雨が降らない時期は水道水で補うしかなかったが、ため池を設置したことにより、学校田んぼでの稲作にかかる水道料金を大きく削減することができた。また、ため池自体がビオトープとなり、田んぼから入り込んだメダカが繁殖したり、トンボのヤゴが見られたりするようになった。ため池は、児童が稲作に活用しながら自然とふれ合うことができる場所としての役割も果たしている。

ポンプでの注水は大変便利である。しかし、「メダカが吸い込まれないか。」と心配する児童の声もあるので、生き物たちとの共生という点で課題も感じている。

■実践ポイント：

児童の主體的な学習活動となるように、児童の思い、問題解決の方法を大切にしながら作成を行ってきた。その結果、作成に関わった児童にとって、自分たちで考え作った大切な場所となっている。

また、地域との協働によって生まれた環境でもあるので、学校の環境教育について、さらに理解を深めていただくことができた。